

琉球大学医学部新任教授記念講演会

常任理事 玉城 研太郎



去る10月9日（水）、本会館にて琉球大学医学部新任教授記念講演会を開催したので報告する。

本会と琉球大学の関わりは長く、昭和59年より琉球大学医学部の先生方に理事としてご就任頂き、琉球大学と沖縄県医師会のパイプ役として重要な役割を担って頂いている。

本会としても本県の医療界全体の発展のために琉球大学医学部と本会の更なる緊密な連携は不可欠であると認識しており、新たに教授としてご就任された先生方と本会会員との親睦を図るため、講演会並びに懇親会を開催した。

今回は、中村幸志教授（公衆衛生学・疫学講座）、西江昭弘教授（放射線診断治療学講座）、西田康太郎教授（整形外科科学講座）のお三方をお招きし、会員との親睦を深めた。

記念講演会では、中村教授より「臨床を意識した公衆衛生学・疫学の研究と社会貢献」、西

江教授より「沖縄県の放射線医療の現状と目指すところ」、西田教授より「教授就任のご挨拶と、琉球大学整形外科科学教室の取り組み一目の前の患者さんのために、目の前にいない患者さんのために一」と題し、講座の特徴や研究内容についてご説明頂いた。

その後、会場を移して先生方を囲んでの懇親会が開催され、祝宴が和やかに行われた。



懇親会

講演

①「臨床を意識した公衆衛生学・疫学の研究 と社会貢献」



琉球大学大学院医学研究科 公衆衛生学・疫学講座
中村 幸志 先生

私は一般内科・プライマリケア診療の経験を活かし、一貫して生活習慣病（主に循環器領域）の予防に関する疫学研究に取り組んできた。疫学的手法とは、実践での疑問や基礎研究の知見から想定される健康問題の因果関係を人集団の普段の生活（real world）の観察によって検証することである。主な研究テーマは、[I] 生活習慣・バイオマーカーと循環器系疾患（高血圧、代謝異常、動脈硬化、腎臓病を含む）、[II] 公衆衛生の立場での生活習慣病対策などである。

[I]：2008年度の特定健康診査・特定保健指導の導入を機に注目されたメタボリックシンドロームに関して、肥満・代謝異常・高血圧と独立して、インスリン抵抗性自体が循環器系疾患を惹起しうる（*Diabetologia* 2010;53:1894-1902）。同じく、インスリン抵抗性は高尿酸血症を惹起しうるゆえ、高尿酸血症とその派生健康障害はメタボリックシンドロームの一併発症でありうる（*Diabetes Res Clin Pract* 2014;106:154-160）。古典的には筋骨格系への作用物質であるビタミンDの血中前駆体の趨勢型である25ヒドロキシビタミンD₃の不足は糖尿病保有と関連があり、糖尿病予防や改善のために日光曝露を伴う形での運動が大事でありうる（*J Epidemiol* 2023;33:31-37）。

働く人々の健康管理に関して、職種別に超過勤務時間と血圧変化の関連を探り、単に勤務時間の長さではなく、ライン業務などのブルーカラー職に多い高ストレス存在下での長時間勤務が血圧上昇の誘因でありうる（*Am J Hypertens* 2012;25:979-985）。高齢者の健康管理に関して、不良な住環境で暮らす高齢者は、特別な支援を要する身体的・社会的特性（認知機能低下、独居、生活保護）を有し、外傷／骨折、横紋筋融解症、低栄養／脱水、糖尿病、がんのハイリスク者でありうる（*Gerontology* 2022;68:1111-1120）。

[II]：大規模データを活用した国の政策研究の一環である「特定健康診査と医療費」班に参画し、降圧薬服用中の高血圧者よりも非服用のグレード2-3高血圧者のほうが長期入院や高額医療費発生リスクが高く、これらが医療費適正化の現実路線の標的でありうることを示した（*J Hypertens* 2013;31:1032-1042）。同じく、「特定保健指導の効果検証」班に参画し、減量に特化せずに広く保健指導が必要な特定保健指導において卒煙指導は限定的である実態、具体的には積極的支援該当の男性喫煙者への保健指導による卒煙率の増加はわずか2.64%であることを示した（*J Atheroscler Thromb* 2018;25:323-334）。沖縄県では肥満問題の数値化を試み、肥満が顕著な一自治体の全高血圧者のうち肥満と関連ある高血圧の割合は男性で49.5%、女性で37.9%と推定し、当該割合はアジア人では珍しく大きく、欧米人なみでありうる（*Hypertens Res* 2023;46:1850-1859）。

上述のような経験を活かして沖縄県民の健康づくりに資する研究を展開したく、県医師会の皆様には今後のご指導ならびにご協力をお願い申し上げたい。また、本講演を通じて当講座へのご理解を深めていただき、当講座が県医師会のお役に立てそうなことがあれば、ご連絡いただきたい。

PROFILE

略歴

1996 年 自治医科大学 卒業
滋賀県内の病院・診療所で内科・プライマリケア診療に従事
2005 年 滋賀医科大学 福祉保健医学部門 特任助手
2006 年 オーストラリア ジョージ国際保健研究所 客員研究員
2008 年 金沢医科大学 健康増進予防医学部門 講師
2010 年 同 准教授
2015 年 北海道大学大学院医学研究科 公衆衛生学分野 准教授
2019 年 現職

②「沖縄県の放射線医療の現状と目指すところ」



琉球大学大学院医学研究科 放射線診断治療講座
西江 昭弘 先生

私が琉球大学に赴任してから早3年が経過しました。最初の2年はコロナ禍の影響で通常から外れた側面を見てきた可能性がありますが、昨年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類へ変更になった後も考慮しつつ、沖縄県の放射線医療について私なりの検討を行いました。本日は下記の4項目に沿って簡潔に述べたいと思います。

- 1) 琉球大学病院放射線科（部）の現況
- 2) 関連病院の現況
- 3) 沖縄県における放射線医療の問題点と対策
- 4) これから目指す放射線医療

具体的には、大学の診療・教育・研究の現状を皮切りに、関連病院への医師派遣、放射線診療に関する加算の取得状況に加え、重要課題の一つである離島・北部地区の診療について分析

を行いました。その中で沖縄県において放射線科医が不足していることは事実であり、放射線科医の教育制度の見直しやメンタルサポートの必要性など、今後取り組んでいくべき対策について述べたいと思います。コメディカルとの連携、リモート支援の充実、人工知能の開発・活用などもその候補ですが、放射線医療のレベルアップには教育→研究→診療を好循環させることが効率的との信念も持っており、その中で現在進めている研究内容についても併せてご紹介できたいと思います。沖縄県では地理的な理由から放射線医療を自己完結することが望まれます。そのため関連病院との連携も重要なテーマであり、その取り組みについても一部お示しいたします。今後も沖縄県の地域医療のさらなる向上に努めていく所存ですので、さらなるご指導、ご鞭撻を賜われましたら幸甚です。

PROFILE

学歴

1994 年 3 月 25 日 九州大学医学部医学科 卒業
1997 年 4 月 1 日 九州大学大学院医学研究科 入学
(機能制御医学系専攻)
2001 年 3 月 26 日 同上 修了

職歴

1994 年 5 月 16 日 国家公務員等共済組合連合会
浜の町病院 放射線科 (研修医)
1995 年 4 月 1 日 九州大学医学部附属病院 放射線科
(研修医)
1996 年 1 月 1 日 福岡市立こども病院・感染症センター
放射線科
2001 年 4 月 1 日 九州大学医学部附属病院 放射線科
医員
2003 年 9 月 1 日 九州大学大学院医学研究院
非常勤学術研究員
2004 年 11 月 16 日 University of Iowa, Department of
Radiology, Visiting assistant professor
2006 年 11 月 1 日 九州大学医学部附属病院
放射線科 助手
2007 年 4 月 1 日 九州大学医学部附属病院
放射線科 助教
2009 年 2 月 1 日 九州大学医学部附属病院
放射線科 助教
2009 年 7 月 1 日 九州大学医学部附属病院
放射線科 助教講師
2011 年 4 月 1 日 九州大学医学部附属病院
放射線科 助教講師
2014 年 4 月 1 日 九州大学大学院医学研究院
臨床放射線科学分野 講師
2016 年 4 月 1 日 九州大学大学院医学研究院
臨床放射線科学分野 准教授
2020 年 7 月 1 日 九州大学大学院医学研究院
先進画像診断・低侵襲治療学共同研究部門
教授
2021 年 4 月 1 日 九州大学大学院医学研究院
放射線医療情報・ネットワーク講座 教授
2021 年 7 月 1 日 琉球大学大学院医学研究科
放射線診断治療学講座 教授

現在に至る

③「教授就任のご挨拶と、琉球大学整形外科学教室の取り組み

「目の前の患者さんのために、目の前にいない患者さんのために—」



琉球大学大学院医学研究科 整形外科学講座
西田 康太郎 先生

2019年7月1日に、琉球大学整形外科学教室の第3代教授に就任いたしました西田康太郎と申します。すでに着任から5年以上経過いたしました。これまでの私自身の経歴や教室の取り組みなどをご紹介します。

私は、1992年に鳥取大学を卒業し、出身地の神戸大学整形外科学教室に入局いたしました。研修の後、大学院では分子生物学の基礎と技術を学び、基礎研究の延長として1996年から3年半にわたって米国Pittsburgh大学整形外科へ留学いたしました。Pittsburgh大学では椎間板に対する遺伝子治療のプロジェクトの中心的役割を任せていただき、これらの研究は幸いにも高く評価され、複数の権威ある学会賞をいただくことができました。2000年に帰国、2001年から神戸大学に戻らせていただき、脊椎班の一員となりました。その後、約20年にわたって神戸大学で脊椎外科を専門とした医師あるいは研究者として研鑽を積んで参りました。そんな中、沖縄では脊椎外科医が不足し、困っているとの情報がありました。また、肺疾患の合併のために沖縄では手術ができず、神戸大学での手術を実際に担当させていただいた経験から、沖縄で必要としていただけるならと意を決し琉球大学の教授選に臨みました。11名の候補者の中から私を選出いただいた皆様には、今でも感謝しております。

沖縄に着任させていただいて早々に、関連する35の施設を訪問させていただきました。その中で沖縄の素晴らしい点多々理解できたとともに、様々な問題点も見えてまいりました。着任1年目に、沖縄の七つの課題（現在は八つ）を作成いたしました。

沖縄県整形外科 七つの課題

1. 脊椎外科全般（専門医の不足、技術）の再興
2. 骨粗鬆とロコモの啓蒙と対策
3. がんの骨転移に対する取り組みの強化
4. 四肢重度外傷に対する標準的治療の啓蒙と定着
5. 小児整形、重度外傷、脊椎外科、手外科、スポーツ整形の集約化
6. 離島、北部医療の強化
7. 女性医師の活躍支援

本講演では上記のこれまでの取り組みについても少しご紹介させていただきます。

来る1月には琉球大学病院ならびに医学部が移転いたします。ちょっとおこがましいですが、私自身は琉球の神様に沖縄に呼んでいただいたと本気で思っていますので、今後も沖縄の整形外科医療の発展のために誠心誠意尽力する覚悟です。皆様、引き続きどうぞ宜しくお願いいたします。

P R O F I L E

略歴

- | | | |
|---------|---------------------------------|------------------------|
| 1992年3月 | 鳥取大学医学部医学科 | 卒業 |
| 1992年4月 | 神戸大学医学部整形外科 | 入局 |
| 1992年6月 | 神戸大学医学部付属病院 | 医員（研修医） |
| 1993年6月 | 国立神戸病院（現神戸医療センター） | 研修医 |
| 1996年6月 | 米国ピッツバーグ大学整形外科 | 特別研究員 |
| 2000年2月 | 神戸労災病院整形外科 | 医師 |
| 2001年6月 | 神戸大学医学部付属病院 | 整形外科 医員 |
| 2004年2月 | 神戸大学医学部付属病院 | 整形外科 助手
（2008年より講師） |
| 2010年8月 | 神戸大学医学部付属病院 | 整形外科 講師 |
| 2016年9月 | 神戸大学大学院医学研究科
整形外科学分野 | 准教授 |
| 2018年4月 | 神戸大学大学院医学研究科
整形外科学分野 脊椎外科学部門 | 特命教授 |
| 2019年7月 | 琉球大学大学院医学研究科 | 整形外科学講座
教授 |

現在に至る